

日常的な安全指導における 一声（ひとこえ）事例

【安全教育の目標】

日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



安全教育で
身に付ける力

危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる
資質や能力の育成

生活
安全

交通
安全

災害
安全

安全教育の3領域

【安全教育の推進に向けて】

このシートは「安全教育プログラム（第12集）」（令和2年3月東京都教育委員会）の「必ず指導する基本的事項」に基づき、指導の際に参考となる「一声」をまとめたものです。安全教育の3領域「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」について掲載しています。

近年全国各地で発生している風水害や近い将来起こりうる首都直下地震等の自然災害の状況、交通事故、犯罪等の社会的な情勢の変化など新たな課題も顕在化している状況があります。幼児・児童・生徒の安全対応能力を一層高められるよう休業後の学校再開時においても、上記に示す3領域の安全について日頃から意識し、安全教育に取り組む必要があります。

このシートは、短い時間で確実に指導を実施する際に活用していただくことをねらいとしています。朝の会や帰りの会、避難訓練等の短時間での取組において、「一声」指導を実施し、幼児・児童・生徒の危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力の育成を積極的かつ継続的に推進して下さるようお願いいたします。

危機を予測し、
回避する能力を高める

日常的な安全指導における 一声(ひとこえ)事例

いつでも、どこでも、
安全指導！

短い時間で、確実に安全指導ができる一声事例※を活用して
子供たちの危険を予測し、回避する能力を高めましょう。

【Ⅰ 生活安全】

Check

登下校の安全	1-① 街頭の少ない道や人通りの少ない道は避けるようにしましょう。	
	1-③ 夕方、暗くなった時間は、できるだけ友人と下校しましょう。	
校内での安全	1-② ルール違反をすることと安全とは、どのような関係があると思いますか。	
	1-④ 雨で、廊下や階段が滑りやすくなっているため、歩行の際に転倒しないように気を付けましょう。	
家庭生活での安全	3-① 家の鍵を開けるときは、開ける直前に鍵を出しましょう。	
	3-⑤ 自分自身はもちろん、特に弟や妹のいる人は、知らない人からの電話の対応の仕方を教えてあげましょう。	
地域や社会生活での安全	4-⑤ やむを得ず外出する場合は、どこで、誰と、何をしているのか、家族に必ず伝えましょう。	
	4-⑥ 不審者に遭遇したときは、保護者・警察・学校に必ず連絡し、報告しましょう。	
	4-⑧ 出掛ける前は、旅行計画や内容及び緊急時の連絡方法を保護者に伝えて出掛けましょう。	
携帯電話等使用時の安全	5-⑤ 許可を得て撮影した写真や動画でも、安易に拡散しないようにしましょう。	

【Ⅱ 交通安全】

Check

道路の歩行と横断 及び交通機関の利用	1-② 信号のあるなしにかかわらず、交差点や四つ角を通過する際、車や自転車に注意しましょう。	
	1-③ 交差点に入る自動車がないことを確認してから渡りましょう。	
	1-③ 右左折の自動車に十分注意して渡りましょう。	
	1-④ 青信号だから、相手が「止まるだろう」ではなく「止まらないかもしれない」と考え、無理に渡るのはやめましょう。	
	1-⑥ 自動車の運転者から、自分の存在を確認してもらえるようにしましょう。	
自転車の安全な利用と点検・整備	2-⑤ 自分が加害者になることもあることをしっかり意識して、自転車損害賠償保険に加入しているか確認しましょう。	
	2-⑥ ヘルメットで頭部を守ることで、命が助かる可能性が高まります。自分に合ったヘルメットを必ず着用しましょう。	
二輪車・自動車の 特性と心得	3-① 大型車が通行しているときは、必ず前後左右をしっかりと確認して、道路を通行しましょう。	
	3-② ヘルメットやシートベルトで、自分の身を守りましょう。	
交通事故防止と安全な生活	4-③ 授業で学んだ胸骨圧迫や人工呼吸、AEDが使えるように、手順を確認しておきましょう。	

【Ⅲ 災害安全】

Check

火災時の安全	1-① 校内の避難経路を確認しましょう。	
	1-③ 火災を発見した場合は、周りに大声で伝え、初期消火を行うなど冷静に行動しましょう。	
地震災害時の安全	2-① 緊急地震速報を聞いたなら、まず、ものが「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所で自分の身を守りましょう。	
	2-⑤ 家具の転倒防止対策はされているか、電気・ガス・水道の供給の停止時にどのように対処するかを家族で確認しましょう。	
気象災害時の安全	4-① 身近な地域の「洪水ハザードマップ」を調べてみましょう。	
	4-⑥ 気象情報の入手方法を知りましょう。	
避難所の役割と貢献	6-① 高校生として避難所運営訓練に積極的に参加しましょう。	
	6-② 高校生は「助けられる」側ではなく、「助ける」側です。自覚をもちましょう。私たちに何ができるでしょうか。	
災害の備えと安全な生活	7-① 避難訓練や防災訓練は、学校だけでなく、地域でも行われています。参加してみましょう。	
	7-④ 日頃から、共助のために必要な知識・体力・技能を身に付けておきましょう。	

◆指導したら、Check しましょう。◆他の一声事例は「安全教育プログラム 第12集(令和2年3月)」(P.20~P.30)に収録しています。◆学校や地域の実情に応じた「一声事例」を考えてみることも、おすすめです！